



いつもお世話になりありがとうございます。現代人の食事時間は平均 11 分、噛む回数は 620 回だそうです。この数字は戦前の約半分、鎌倉時代に比べると 3 分の 1 以下だとか。日々の仕事で時間に追われ、「食べることを大事にする気持ちが薄くなっている表れかもしれません。「いただきます」の感謝を忘れないように戒めたいものですね。

### 痛快! えだまめ君

画:ほりひろみ



## 社労士がズバズバ! 職場のQ&A

### 【従業員がパートを含めて 12 人、就業規則は必要?】

**Q:** 製造業で総務を担当しています。今春、人員を増強し従業員が 8 人から 12 人に増えました。従業員が 10 人以上の場合には就業規則を作る義務があるそうですが、正社員 9 人、パート 3 人の当社は作成が必要でしょうか? 作成の手順やポイント、従業員や社外に対して必要な手続きはどのようなものでしょうか?

**A:** 1 つの事業所で常時 10 人以上の労働者（パート・アルバイト含む）を使用する場合には就業規則の作成義務があります。就業規則は賃金や労働時間などの規律を明らかにしたもので、労使双方が良い関係を築き会社の業績発展に寄与する効果があります。就業規則には、労働時間・休日休暇・賃金・退職など絶対に記載が必要な事項と、退職金や手当などルールがある場合に記載する事項があります。パートと正社員で待遇が違う場合にはそれぞれ就業規則を作る必要がありますが、現状 12 名の御社ではパートの労働条件等については雇用契約書に明記し、契約書に記載の無い部分は就業規則によるとする方法が簡便です。就業規則は使用者が作成し労働者代表の意見を聴き周知させ、所轄の労働基準監督署まで届け出ます。昨今、労働者への周知が重要視されているので徹底しましょう。



## 今月のあなたの運勢

鑑定: 妙慎

### A型

焦れば空回りしやすい  
今月は、確実にできる事をこなしましょう。金運は財布やカードなどの紛失にご注意を。

### B型

自分の思いを通すより  
周囲の要求に応じる方が良運です。特に部下の言葉に耳を貸し、器の大きさを示すと吉!

### O型

悩みがあれば専門家などに相談すると解決の糸口が見えてきます。またチャンスと見たら素早く行動すると吉!

### AB型

言葉使いを丁寧にする  
とあなたの評価がUPします。さらに自分の個性を打ち出す工夫が吉運を呼び込みます!



こんにちは！

まだ少し肌寒い日もありますが、長かった冬も過ぎて春の季節になりました。

4月は新年度、新学期の始まりであり、入社式・入学式も4月に行われます。そのためなんだか4月という響きだけでとても新鮮でさわやかな気持ちになるのは皆さんも一緒なのではないでしょうか？

当事務所では、先月は確定申告期だったこともあり慌ただしく過ぎていった気がします。

特に私の場合、初めて本格的な繁忙期を経験しました。「試行錯誤」の毎日というよりは「暗中模索」の毎日だったなあとと思います。前者の意味は「新しい物事を、いろいろ試して失敗しつつ完成に近づけてゆくこと」で後者の意味は「暗闇の中で何かを探すような感じで、手がかりが分からないままに手探り状態で問題を解決しようとする」といろいろ行動してみることに「だそう」です。この言葉の意味の違いを知ると、なんとなく暗中模索は、計画性・方向性も明確でなく無謀にもがいているだけで、試行錯誤には方向性が明確であり、計画的に前進していく感じがしてスマートに思えます。忙しい時、過酷な時ほど「暗中模索」から「試行錯誤」へ少しでも変えることが大切だなあと痛感した繁忙期でした。

武内

## 365日 が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

### 今月の商売のヒント:【ある若者に学ぶ「真のホスピタリティ」】

「顧客第一主義」をうたう企業は数多く、「ホスピタリティ（おもてなしの心）」という言葉も商売の常套句になりました。しかし、当たり前になってくると本質を見失うのが人間です。大事なものは耳あたりの良い言葉を掲げるのではなく実際の行動です。30歳の若者が改めてそれを教えてくれました。



世界最高峰のエベレストに「単独」「無酸素」で挑む栗城史多（くりきのぶかず）さんを一躍有名にしたのは、登山の様子を自らビデオカメラで撮影してリアルタイムで動画配信する「自分撮り」というスタイル。普通なら1グラムでも荷物を軽くしようとする登山で、わざわざ重い機材を抱えて自分撮りしながら世界6大陸の最高峰を踏破してきたのは、「夢や冒険の共有」を目指しているからだそうです。エベレスト挑戦の費用は7200万円。山を下りた彼には「資金集め」という、これまた「高い山」が待っています。起業家としてスポンサー獲得に奔走する一方で、各地を回っての講演活動。その講演に参加した60代のある社長が、「栗城史多という若者から真のホスピタリティを学んだ」としきりに感心していました。

講演会後のサイン会で彼は立ったまま1人ひとりを迎え、チケットの半券でもレシートでも携帯電話の電池でも背中でも、差し出されたものすべてに快くサインをしたそうです。その日、サイン会の列に並んだ人はおよそ300人。そのほとんどが栗城さんに自分自身の夢を語ると、彼はすべての人の話に熱心に耳を傾け、「一緒に夢を叶えましょう」と激励し、会場がタイムリミットになってしまった



あとは、寒い中、外に出てまでサインを続けたそうです。来てくれた人を精一杯もてなしたい。夢や冒険の共有を目指す彼にとって、それはごく自然な行動なのだと思います。どんなに素晴らしいことでも、言葉を並べるだけなら単なる「標語」で終わってしまいます。掲げた「顧客第一主義」「ホスピタリティ」をただの標語に変えてしまわないように、私たちもよりいっそう魂を込めて商売に励んでいきたいですね。